

第1回湘南大庭の未来を考える会議議事録

日時 2021年（令和3年）5月17日（月）午後2時30分～4時
場所 湘南大庭市民センター 体育室
参加者 湘南大庭の未来を考える会議委員 22人
事務局 12人（詳細は出欠表のとおり）

《第1部》 湘南大庭の未来を考える会議 委嘱式

藤沢市長から湘南大庭の未来を考える会議委員を代表して神木氏に委嘱状を手渡し、その後、藤沢市長が挨拶し、委嘱式を終了した。

《第2部》 第1回 湘南大庭の未来を考える会議

1 開会

会議に先立ち、奈良計画建築部長及び平井市民自治部長から挨拶があった。

2 委員挨拶

各委員から自己紹介を行った。

3 湘南大庭の未来を考える会議設置要綱の説明

若宮住宅政策課長が設置要綱を説明した。その後、会長の選出について事務局に一任されたので、佐野充氏を推薦して了承された。副会長については、佐野会長が實方理佐氏を指名し、了承された。

4 会議の進め方（スケジュール概要）について

10分休憩を挟んだ後、資料を基に事務局から説明した。

具体的な協議内容については、湘南大庭地区の魅力、課題把握に関すること、活性化するための方策、将来のまちづくりの方向性に関することを協議する。

目標とめざす効果としては、現状と課題を全体で把握し、湘南大庭の再活性化に必要な地域と連携した取組を模索する中で、地域住民、民間事業者、行政機関等が一体となって推進できるよう、庁内関係課や関係機関などに必要な方策を働きかけ、提言するとともに、概ね3～4年間で湘南ライフタウンの団地再生と地域活性化に向けた将来プランをまとめる。

今後の進め方については、令和3年度では地区全体の魅力や課題の抽出、令和4年度では課題ごとに部会等を設置し検討を重ね、令和5年度では課題の整理と将来の方向性を決定し、計画を策定する。

会議は各年4回、平日日中に開催する予定としている。

（質疑なし）

5 湘南大庭地区の移り変わりについて

資料を基に事務局が説明した。2016年に企画政策課で「住宅都市地域における持続可能なコミュニティの在り方の調査研究」を行っているため、その資料

を基に説明した。

もともと湘南大庭地区は藤沢の代表的な農村であり、そこにニュータウンを整備することとなった。建築家である黒川紀章氏が設計し、都市と農村の共生をデザインコンセプトにした。道路は車と歩行者の共生が可能なように、車歩分離で、交差点はT差路となっている。また、異なる世代の共生、老人と若者の共生を実現するため、高齢者用の低層住宅、若者用の高層住宅、家族タイプの中層住宅など、多様な居住形式がミックスされている。

現在のライフタウンは、平成7年からの10年間で農地の割合は13%から10%に減少し、都市と農村の共生という理念が薄まりつつある。また、多様な居住形式がミックスされているが、高齢化が急速に進み、市内13地区の中では一番高齢化率が高く、異なる世代の共生という理念から離れている状況となっている。

課題としては、高齢化率が高い地区であり、今後もさらに高くなることが予測されている。一方、介護等認定率が市域で最も低い状況にあり、湘南大庭地区は健康づくり意識が高い。坂が多い地区のため、高齢者にとって移動しやすい交通環境を整えることが必要である。また、人口が減少傾向にあるため、生産年齢人口を呼び込む取組が必要である。既存建築物の老朽化も進んでいるため、維持、改修等をおして、高齢者等が安全、安心に生活できる環境形成が求められる。

また別の資料は、湘南大庭市民センターを中心に、南北にまち歩きをしたので、その感想をまとめたもの。

(質疑なし)

6 その他

次回の日程については、事務局から改めて連絡することとなった。

7 閉会

以上